

ー総括表ー

☐ 地域の現状と今後の方向性

コロナにより中断されていた地域活動が再開されてきているが、以前より縮小したり担い手が見つからず再開できなかった活動もあるため、さらに繋がりを深め誰もが安心して暮らせる釜利谷をつくるために、地域のニーズや動きを5職種で共有し、必要な支援を行っていく。
またケアプラザの場所を知らない、知っていても利用したことがない方が多いという課題があるため、見学会や多世代が楽しめる会食会などを開催し、ケアプラザは誰でも気軽に集える・相談できる場であるということを知っていただけるような取り組みを行う。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	ー具体的な取組内容ー
☐	☒	地域福祉保健計画の目標である”誰もが安心して暮らせるまち 認め合い、助け合い、笑顔あふれる「釜利谷」の実現に向け、ケアプラザを中心に、地域住民、事業所等で構成された会”かまりや一の”での取り組み「かまもりホルダー」や「あいさつ運動」の継続を行うとともに、この会で築きあげた住民同士のつながりや思いを継続してくための新たな場や仕組みづくりを行っていく。
☐	☒	認知症になっても安心して住み続けられる地域を目指し、講演会や認知症サポーター養成講座を継続して開催し、あらゆる世代に認知症についての正しい知識と理解を普及啓発していく。また、釜利谷地域ケアプラザ包括エリア内の認知症キャラバン・メイト連絡会等を通じて支援者を増やしていく。
☐	☒	住みなれた地域に住み続けるため、地域住民による活動の情報リスト「かまりやみんなの活動情報(釜利谷みんなの情報シート)」と、お買い物後の配達情報も掲載している「かまりやお買いものガイド(釜利谷みんなのお買い物情報)」の情報更新を行う。
☒	☐	”ケアプラザは気軽に集える場・相談できる場”であることを知っていただくための「釜利谷地域ケアプラザ見学ツアー」を開催する。またコロナ禍のために一時休止していた「森の小道やまなみ(多世代会食会)」を再開し、赤ちゃんからお年寄りまで、地域の誰でも利用できる施設であることの周知に努める。
☐	☒	支援者側が感じる課題やニーズにとらわれない視点での新たな教室や講座、情報提供を行い、より多くの方に福祉・保健サービスを提供していく。また、詐欺被害が多い中、被害に遭わないための注意喚起や予防対策についての啓発をさまざまな方法で行っていく。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

地域活動についてほぼコロナ前の状態に戻りつつありますが、数年間活動を休止していたことにより、以前より更に担い手不足や高齢化などの課題も出てきています。そんな中、それぞれの地域で解決策を模索し、形を変えて活動を再開することで活気を取り戻していくなど地域の力を感じる一年となりました。ケアプラザとしても地域の情報交換や交流の場をつくることで地域を支援することができました。
かまもりホルダーについて、個別相談や各地域のサロンなどに出向いた際に説明を行うことで登録者数も増加しています。年一回更新の際に電話で話すことも、つながっている安心感があると喜ばれています。実際に救急隊や警察などから緊急時の問合せもあり、お役に立てていると感じています。
認知症の正しい知識と理解の普及啓発について、医療講演会やキャラバンメイト交流会を行うことで支援者を増やし、また介護者のつどいや月一回のかまりやサロン(認知症カフェ)開催などによって認知症の方を支えるご家族の交流や情報交換の場をつくることで、認知症になっても住みやすい釜利谷を目指した活動を行いました。
「かまりやみんなの活動情報」「かまりやお買い物ガイド」の内容をより充実したものに更新し、地域の民生委員やケアマネジャーなどの支援者に配布することで、地域の活性化につながりました。
はじめての事業である「釜利谷地域ケアプラザ見学ツアー」を開催し、ケアプラザ全事業の説明や施設の見学を行いました。参加者からは、ケアプラザを身近に感じられるようになった、是非利用してみたいなどの感想をいただきました。
エリア内で詐欺被害が頻回に発生しているため、広報誌での情報発信をはじめ、主催の事業内でミニ講座を行ったり、個別・包括レベル地域ケア会議にて検討するなど消費者被害に関する普及啓発にも努めました。

☐ 区からのコメント

ケアプラザ事業参加者お一人ひとりに丁寧に声をかけたり、地域のサロン等に積極的に足を運ばれ会話の中からニーズや課題を把握し、講座の開催等の事業に発展させています。また、今年度は初めて「釜利谷地域ケアプラザ見学ツアー」を開催され、遠方で足を運ぶ機会の少ない方にも元気なうちからケアプラザを知ってもらうきっかけづくりをされました。今後も、丁寧なニーズの把握と分析に基づいた事業を実施いただきますようお願いいたします。
地域活動が再開される中で、担い手の高齢化や減少といった課題が顕在化されましたが、子どもやその親世代が活動に参画されるなどの新しい活動も始まってきています。この様な課題や取組を各種連絡会の場にて活動者同士が共有することで、新たな活動の可能性や広がりにつながっています。今後も、地域の活動者等が相談や共有できる機会を通じてネットワークをより強固なものとしながら、安心して住み続けられる地域づくりをより一層進めていただきますようお願いいたします。